

# 平成24年度ふじの園法人本部 事業概況報告

## ●● 社会福祉法人ふじの園 基本理念 ●●

キリストの愛と光によって導かれた子どもたちの尊厳と幸福を目指します

### 1. 事業概況

国が示した子ども・子育て新システムを受け、幼稚園・保育園の一体化、社会的養護の充実など子どもを取り巻く環境は大きく変化しています。子どもの養育に関わる法人・施設として時代の潮流を的確に捉え、社会福祉事業の主たる担い手としてふさわしい事業を確実、効果的かつ適正に行うため、サービスの質の向上及び運営基盤の強化が求められています。

平成24年度の法人本部の事業内容としては、前年から引き続き一関藤の園の改築に関連した議案等の審議のための理事会の開催や改築に関する助言等を適宜行い、より良い園舎の建設のために法人と施設が一体となって進めることができました。新しい園舎は、規模を縮小するなど当初の計画を変更することになりましたが地域の方々の役に立つような施設にしたいという想いは変わっていません。竣工は多少の遅れはあるものの平成25年6月21日を目指しています。

平成24年4月に法人設立に尽力された本田元理事長、12月には51年前に一関藤の園を創立されたエゴロッフ神父様が相次いでご帰天されました。両氏とも深い人間愛に基づきカトリック精神を具現化された方でした。私たちの精神的な支柱を失ったことは大きな悲しみですが、お二人のご遺志を受け継ぐことが私たちの責務であると考えています。

### 1. 法人本部の主な出来事

日 時	主 な 出 来 事
24. 4. 24	第1回理事会（役員改選）
24. 4. 29	本田守男前理事長ご帰天（5月4日 社会福祉法人藤聖母園にて追悼ミサ）
24. 5. 15	一関藤の園創立記念日（創立50周年）
24. 5. 18	法人監事による決算監査
24. 5. 28	第2回理事会（決算報告等）
24. 8. 1	一関藤保育園県南広域振興局による指導監査
24. 8. 21	第3回理事会（定款改正及び改築関連）
24. 8. 25	一関藤の園改築工事起工式
24. 9. 15	一関藤の園改築工事西松建設と工事請負契約締結 改築工事着手
24. 10. 12	一関藤の園県南広域振興局による指導監査
24. 12. 6	一関藤の園創立者エゴロッフ神父様ご帰天
24. 12. 10	マルティーザ・インターナショナルと追加契約書の締結
24. 12. 21	第4回理事会（改築関連及び補正予算等）
25. 3. 26	第5回理事会（事業計画及び当初予算等）

# 平成24年度一関藤の園 事業概況報告

## 1 施設運営総括

平成24年度大目標	『安全感・安心感・安定感のある施設作り』
施設運営の方針	『健全な施設運営を図り、良質なサービスを提供する』
施設運営の目標	『新園舎の早期完成とユニットケアへの円滑な移行』

平成24年度は、前年に引き続き園舎改築に関する業務を中心に取り組みました。改築にあたっては、施工業者や設計業者と協議を重ね、細部に渡り施設の意向を新園舎に反映することができました。また、新園舎では6名～8名程度のユニット制による養育体制となることからユニット制を実施している児童養護施設藤聖母園（青森市）に職員を派遣し、実習を通してユニット制の養育について理解を深めることができました。さらに、全職員によるワークショップを開き、より良い職員体制や養育のあり方について検討を重ねました。

施設運営では他に6項目を重点施策として取り組み、社会福祉法人新会計基準の移行作業や第2次中長期事業計画の策定などは概ね当初の計画を達成することができました。また、児童の安心・安全を更に高めるために非常食の備蓄や自然災害時等の緊急事態に備えての体制整備を図りました。さらに、東日本大震災を風化させない取り組みとして3月11日に合わせて非常食の食事や追悼ミサを行ないました。

東日本大震災から2年が経過しましたが、平成24年度においても日本国内外から多くの個人、企業、団体から様々な形で継続した支援をして頂いており、施設を運営していくうえで大きな支えとなっています。

## 2 養育関係総括

養育の方針	『基本的生活習慣の確立と自立支援の充実』
養育の目標	『個々のニーズに応じた支援の充実』

仮設園舎での生活も2年目に入り、幼児と学童女子の一体養育など不慣れなことも多々ありましたが子どもたちと協力しながら過ごした1年間でした。しかし、高齢児の中には学習や人間関係で躓く児童もいて自立支援や養育のあり方を自省し再考する機会となりました。また、6月中旬から病気で長期の入院治療を余儀なくされた児童について、関係機関とも協力しながらできる限り面会の機会を作るなどの児童とその家族の支援を行ないました。

そのような状況の中で、6月の東京デイズニールランドの招待やプロ野球観戦の招待、夏と冬のキャンプの招待、また恒例行事となっているライオンズ夏まつりやサンタニコラオのお祝いのボランティア等々、子どもたちのために地域の方々をはじめ多くの方々が様々な形で

支援をして頂きました。子ども達は、感謝の気持ちを込めて御礼状やクリスマスカードを作成することができました。

また、メンタルヘルスケアとして子どもたちの要望や意見を聞きながらホーム毎の行事を行なうとともに、改築に合わせて環境について考える機会として、くりこま高原自然学校でのエコ・ワークショップやソーラーパネルキットの組み立てのワークショップを計画し実施しました。

また、近年はショートステイ、トワイライトステイの短期子育て事業（委託事業）を利用するご家族が増加していることからご家族のニーズに的確に応えられるように可能な限り受け入れることに努めました。

以上

# 平成24年度一関藤保育園 事業概況報告

## 1 施設運営総括

施設運営については、防災や安全管理について見直しを行ないました。毎月の避難訓練の実施や園独自の危機管理マニュアルの策定などにより職員の意識改革を図りました。また、設備面では2階ホールから園庭に避難する際に使用する非常階段の屋根や支柱の改修を実施し園児の危険防止を図るとともに園児の送迎の際の車道への飛び出しや不審者の侵入などに備えて安全で安心できる施設の推進に努めました。

園児の健康の増進を図るために栄養計算ソフトを導入したことにより今まで以上に給食献立を見直し栄養のバランスが取れるようになりました。園児にあった成長曲線を算出することができるようになり肥満対策に効果が見られるようになりました。また、最近増加している子どものアレルギーの管理にも役立つようになりました。

## 2 保育関係総括

### (1) モンテッソーリ教育

当保育園では長年に渡りモンテッソーリ教育を行っています。午前保育の静かな時間を意識させ、モンテッソーリ教具を各々が選択し集中して「しごと」ができるようにしました。モンテッソーリ教具による個別指導を中心とした自由選択活動の環境を設定し自己決定、自立への手助けをしています。

### (2) 食育とクッキング保育

保育園における食育は、食べ物を選べる子、元気な身体に分かる子、食べ物の育ちを感じる子、味に分かる子、料理のできる子を目指して行いました。

年6回、年長児を対象に栄養士、保育士とともに実際に食材に触れ、調理器具を使用して調理実習を行ない、自分たちで調理した料理を実食することができました。

その他にバイキング給食やリクエスト給食など子どもたちが楽しく食事ができるように工夫しました。

### (3) 特別支援児保育事業

月1回、音楽を通して子どもの心を癒し様々なセッションを行ない、楽しく参加することにより人と人との心理的なコミュニケーションを持てるようにしました。

他に、年2回保健師・特別支援コーディネーターの巡回指導による「かるがも教室」年4回、スーパーバイザーによる育児相談を実施しました。

以上